

## 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月5日（金）（5校時）  
 児 童 1年1組 男子17名 女子19名  
 指導者 佐藤 良子

- 1 単元名 くらべてよもう  
 教材名 「じどう車くらべ」

2 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第1学年 「読むこと」(2)イ 「じどう車ずかんをつくろう」
言語活動の説明	読み取ったことをもとに自動車図鑑を作る。 <情報解釈力に関わって> 「仕事」と「つくり」を視点として順序を確かめながら読むことによつて、教材文の内容を理解する。 <自己活用力に関わって> 「仕事」と「つくり」を視点として読み取ったことをもとに、書いたり話したりして表現する。
必要とされる知識・技能	①書かれている順序 ②問いと答え ③自動車の名前 ④仕事 ⑤つくり

3 単元について

(1) 児童について

子どもたちはこれまで「読むこと」の説明文の学習において、次のようなことを学んできた。「くちばし」で「問い－答え」が3回繰り返されている文章を読み、「みいつけた」では、「問い－答え－答え－答え」で構成された文章を読んできた。それぞれの学習で、「問い」と「答え」を見つけて線で囲んだり、文章と挿絵や写真とを対応させながら内容を読み取ったりすることで、説明文の構成や文末表現に慣れてきた。多くの子どもが基本文型を手がかりに問いと答えの文を探して区別したり、文章と挿絵や写真を対応させながら内容を読み取ったりすることができるようになってきた。しかし、説明されている事柄の順序を考えながら内容を読み取る能力の個人差は大きく、十分に指導できているとは言えない。また、必要な情報を整理して文にまとめることもこれから身に付けさせなければならない力である。

**【身に付けさせたい力】**

○文章の構成や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読む力

(2) 教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。

本教材は、身近な自動車を題材にして、「仕事」とその「仕事」をよりよくするために工夫された「つくり」について述べられた説明文である。4つの意味段落で構成され、「話題・問題提示（第1

段落) →例を挙げて説明(第2段落～第4段落)」という内容になっている。第1段落の「問題提示」では、児童の自動車に対する関心を誘い、それぞれの自動車がどんな「仕事」をし、そのためにどんな「つくり」になっているかを問いかけ、読者に疑問や読みの視点を意識させている。第2～4段落の「例を挙げての説明」では、3種類の自動車について、「仕事」とその仕事に合わせた「つくり」が同じ順序で繰り返し説明されている。そのため、事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材であると言える。また、繰り返し出てくる接続語「そのために」や文末表現に着目させることで、説明文の構成や文型にも慣れさせることができると考える。

### (3) 指導にあたって

児童の実態や教材の特性から本単元で子どもたちに身に付けさせたい力を「文章の構成や事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力」と考え、自動車図鑑を作るという言語活動を設定する。この図鑑作りは、教材文の読み取りで学んだ構成と同じ順序で自動車の説明文を書く活動であり、順序よく説明することのよさを理解できる活動であると考えた。

第一次においては、知っている自動車について発表したり、外で実際に走っている自動車を見たりして、自動車に興味・関心をもたせておく。そして、単元のゴールである「じどう車ずかんをつくろう」という目的意識を明確にして、学習計画を立てる。また、図鑑を作る自動車を選んでおくことで、第二次の学習に主体的に取り組ませたいと考える。そのため、教室にコーナーを設けて、自動車図鑑や自動車絵本をいつでも手に取られるようにしておく。

第二次においては、それぞれの自動車の「仕事」と「つくり」の特徴を読み取り、「仕事」と「つくり」がどのように書き表されているかを学習する。読み取りの際には、文章と挿絵を結びつけたり、「そのために」という接続語に着目させたりしながら、「仕事」と「つくり」を関連付けていく。そのことによって説明文の構成を理解させたいと考える。

第三次では、これまで学習したことをいかし、自動車図鑑を作成する。共通な資料から必要な事柄を集める方法を学んだ後、自分の選んだ自動車の「仕事」と「つくり」についての情報を抜き出し、自動車図鑑作りに取り組む。完成した図鑑は、友達同士で交流する。その後、日頃読み聞かせを行って来ている6年生に読んで聞かせ、感想をもらうことで、児童の学習意欲をさらに高めることができると考える。

## 4 単元の指導目標

◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むことができる。 「読むこと」(2)イ

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・自動車の仕事やつくりに興味を持って文章を読んでいる。	・事柄の順序を考えながら、内容の大体を読んでいる。	・片仮名で表記することのできる自動車の名詞を読んだり書いたりしている。



7 本時の指導（1年1組 第三次 第6時）

（1）本時の目標

資料から、はしご車の「仕事」と「つくり」を読み取り、順序を確かめながら図鑑カードにまとめることができる。

（2）本校の研究に関わって

自己活用力 「身に付けた技能や読み取ったことをもとに自分の思いや考え、生活経験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」



低学年 「身に付けた技能や読み取ったことをもとに自分の思いや考えをまとめる力」

（3）本時の指導

	学習活動、発問（○）	指導上の留意点（・） 手立て【 】
つかむ 5分	1 前時までに学習した車について想起する。 2 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         じゅんじょにきをつけて、はしご車のずかんカードをかこう。                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに学習した自動車の仕事とつくりについて思い出させる。</li> <li>「仕事」はその車がすること、「つくり」は、その車についているものということを確認する。</li> <li>はしご車の一部分だけ絵が見えるようにして挿絵を提示し、本時の課題へとつなげる。</li> </ul>
ふかめる 35分	3 これまでの自動車との違いについて考える。 ○「これまで学習した自動車と一番違うところはどこですか。」 ○「どうして梯子がついているのでしょうか。」 4 はしご車の「仕事」と「つくり」を図鑑から読み取る。 5 はしご車の説明文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿絵を手がかりに「つくり」について考えさせる。</li> <li>「梯子」が仕事に合わせた大事なつくりであることを確かめる。</li> <li>はしご車の資料を読んで、写真と文をつながせる。</li> <li>「仕事」→「つくり」の順序でまとめることを確かめる。                          【読み取ったことを想起させる場】</li> <li>書けない子どもには、教師と対話しながら文型に当てはめて書くことができるようにする。</li> <li>ペアで聞き合うことで、順序を確かめたり、友達の説明のよさを認めたりできるようにする。</li> </ul>
まとめる 5分	7 書いた説明文を発表する。 8 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考えた説明のよさに触れて感想を発表させる。</li> <li>次時は、自分の選んだ自動車で図鑑を作ること知らせる。</li> </ul>

（4）本時の評価規準

はしご車の資料から「仕事」にあった「つくり」を読み取り、「仕事」「つくり」の順序でまとめている。 【読（イ）】